

IV 活動トピックスとエネルギー

1. 談義の会

【1】防災まちづくり談義の会」(談義の会)がスタート

毎月の月例会にただ集まって意見交換、情報交換をするよりも一歩進めて、「防災」に関する様々な情報知識を専門家の皆様より多角的に学ぶ機会にしたいと、談義の会がスタートしました。

講師をお願いするにあたっては、「面識のない方々にお金がない中での講演をお願いする」という、かなり高いハードルがありました。

第1に荏本先生のネットワークの協力を得たこと。

第2に顧問の荒巻さん、上原さん、杉原さん、中川さん、経済学部佐藤先生ともつながり、また横浜市の関係者の紹介を頂けたこと。

第3にだるま会員は、それぞれが多くのネットワークを持っており、紹介と協力をいただきました。

第4に時々「飛び込み」で、例えば「9月1日」の防災の日に関連する研究機関にお願いしました。

第5に講師を通してネットワークが次々に広がりました。

【2】災害を学ぶ

体験するのが一番といいますが、大地震、大水害や風水害の実体験はなかなかできません。そこで被災地を訪れ、現場の様子を見聞きし、被災関係者から被災体験やその後の復旧復興への取り組み等を傾聴することが大切で、見聞した財産を次の災害に備え、活かしてきました。談義の会は大震災中心のテーマで実施してきました。

- ① 東日本大震災 ② 阪神淡路大震災
- ③ 関東大震災 ④ 様々な災害
- ⑤ 世界の災害 ⑥ 火山・災害等 ⑦ 感染症関連

「談義の会」の講演にあたっては、様々な分野の講師より、災害に関する多角的視点や興味深いお話を聞くことができました。講演後の会食の機会などを通して、講師の人となりを知ると同時に、実践講座・地域講演に活かしたり、講師の方々のネットワークのおかげで、次への提案企画が次々と生まれていきました。

【3】分析状況

談義の会を災害別と講師の所属別に整理しました。

災害別の分析

テーマ別	内 容
① 東日本大震災	・談義の会 29回、被災地へ5回、国連防災会議 1回
② 阪神淡路大震災	・談義の会 16回+定例会で報告、1. 17参加 14回
③ 関東大震災	・談義の会 8回、まち歩き 1回
④ 様々な災害	・中越 3回、被災地 1回、熊本地震 2回、能登、広島 2回
⑤ 世界の災害	・ニュージーランド 2回、四川地震 1回、ハイチ 1回、諸事例 3回
⑥ 火山・災害等	・火山災害 2回、・竜巻・原子力各 1回、地震の歴史 2回
⑦ 感染症関連	・5回+勉強会

講師の所属別

所属別	内 容
1. 大学・教育関係	・神奈川大学、東京都立大学、東京工業大学、長岡造形大学、サフォーク大学（USA）、城西大学、関東学院中学高校、早大大学院生、横浜市立小学校長、ほか
2. 行政関係	神奈川県、東京都、国土交通省関東地方整備局、横浜市、川崎市、兵庫県、神戸市、米軍、ほか
3. 諸研究団体等	土木学会、防災科学研究所、横浜地方気象台、消防防災科学センター、生命の星地球博物館、温泉地学研究所、横浜開港資料館、横浜歴史博物館、横浜市史資料室、横浜衛生研究所、川崎健康安全研究所、横浜みなと博物館、ほか
4. 機構等	海洋開発機構、砂防フロンティア整備推進機構、中越防災安全推進機構、小堀研究所、地域防災研究所、ほか
5. 専門家	コンサルタント、弁護士、船長、元自衛官、一級建築士、ほか
6. 企業・報道関係等	NTT東日本、時事通信社、神奈川新聞社、FM放送局、JR東日本労組 FM湘南ナパサ、ほか
7. 議員	国会議員、地方議員

【4】特記的な談義の会

① 被災地の方々からの協力

元神戸市職員松山氏（「贈る言葉」参照）を通して、直下地震の学習が深まりました。

毎年行われ、随時報告される「1.17のつどい」に震災後の様子が報告されています。養成講座では第1回（2006年）は松山順三さん、その後は小林郁雄さん、近藤拓さんと続きました。

最近の談義の会第169回 2019.7「わたしたちの命は守れるのか」松山順三さん、養成講座第13回（2018年）は近藤豊宣さん（発災時神戸市立鷹取中学校校長）が熱い思いを伝えてくれました。

東日本大震災では、岩手県山田町出身の佐々木さんが活躍したことが、7. 会員寄稿集【2】寄稿文の「被災地から得たこと」に、詳しく出ています。荏本先生と一緒に現地調査をしました。



荏本先生は、被災報告を神奈川大学や横浜市緑区で講演。黒岩神奈川県知事との対談を行い、同席した山口章さんは、「防災塾・だるま」の説明を行いました。



浦辺利広さんは、東日本大震災で被災され横浜市内の娘さん宅に避難、横浜市緑区で講演の後、だるま会員になりました。寄稿文に記述されていますが、横浜で5年、自宅を再建し地元岩手県山田町に帰郷しました。横浜市緑区で講演された「震災体験談」がだるまへ、さらに各地団体への被災の体験伝承につながって行きました。

② 感染症関連の取組み

世界中の死者542万人、日本でも1万8千人（2021.12末現在）と東日本大震災を超える人が亡くなっています。新型コロナウイルス感染症禍が発生する前に、かねてより感染症を予想していたので、横浜市衛生研究所の大久保先生の紹介で川崎市

健康安全研究所、岡部先生による2019年10月に研究所での講義「感染症の危機管理」と、同研究所の見学が実現しました。

従来、スペイン風邪が100年毎説でしたが、今後はSARS(サーズ)、MARS(マーズ)等の頻度を考えると「数年毎の発生」を想定し準備しなければとの意見もあります。

2021年夏、陽性と判断されながら入院出来ず自宅で亡くなった！なんと無念な思いではないでしょうか。加えて災害時の感染症対策を考えると、肌寒い思いがします。引き続き感染症を通じて様々な複合災害への準備が必要ではないかと思えます。

③ だるまも国際化へ

防災の課題も国際的に考える時代になり、少し外に目を向けなければと思います。第1にHPにだるま紹介文「Introduction」を英文で作成しました。中島さんの娘(リングマンさん)が米国人と結婚し、米国そして現在はニュージーランドで暮らしています。談義の会では第108回「自由な国アメリカの光と影」を講演し、最近ではニュージーランドでの感染症対策などをオンラインで報告していただきました。

第2はエール大学からの留学生、ライアン・セイアーさん、日本では少ないが竜巻が米国では多発、地下にシェルターを作り取り組んでいる話にびっくり！！

2013年6月に東日本大震災2周年記念行事に、荏本先生の研究室よりスペイン人研究者ダニエル氏参加、一緒に被災地を巡りました。

「談義の会」等での感染等の取り組み

日付 談義	話題・講演内容	講師(敬称略)
2018.1.25 (H30) 151	災害と公衆衛生	横浜市衛生研究所 所長 大久保一郎
2018.6.29 (H30) 156	災害派遣における保健活動	横浜市健康福祉局 係長 桑原明日香
2019.10.11 (R1) 171	感染症の危機管理について (注)講演後研究所内見学	川崎市健康安全研究所 所長 岡部信彦
2020.2.14 (R2)勉強会	感染症と災害 ～新型コロナウイルス感染症～	筑波大学名誉教授 医学博士 大久保一郎
2020.7.31 (R2) 176	*「COVID-19 第1波の教訓を生かして 今後の複合災害に備える」 ～ダイヤモンドプリンセス号の対応に学ぶ～	参議院議員 厚生労働大臣政務官 医師 自見はなこ
2020.9.25 (R2) 177	新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所開設 と運営を考える	横浜市危機管理室 係長 井上博文
2020.12.11 (R2) 178	感染症対策における新型コロナウイルス感染症の 課題	横浜市衛生研究所 所長 大久保一郎

*ダイヤモンドプリンセス号について

2020年2月1日、香港で下船した男性から新型コロナウイルス感染が判明した。

2月3日横浜港に停泊したダイヤモンドプリンセス号の船内検疫が始まった。

その後、乗員乗客711名の約2割の712名が感染(内13名が死亡)様々な課題を警鐘した。